

謹賀新年

平成30年 元旦



矢巾町長
高橋 昌造

「住んでよかった」から
「住みたくなるまち やはば」の実現を
矢巾町まちづくり改革元年

新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、町内小中学校と不来方高校の皆さんの素晴らしい活躍が思い出されます。音楽関係では、煙山小学校吹奏楽部が、9月に仙台市で開催された「全日本吹奏楽コンクール第60回東北大会」で初めての金賞を受賞いたしました。また、10月に大阪市で開催された「第70回全日本合唱コンクール全国大会」においては、矢巾北中学校特設合唱部が銅賞を受賞し、不来方高校は10年連続金賞、そして3年連続で文部科学大臣賞という最高賞を受賞いたしました。この他にも、

矢巾中学校の吹奏楽部は県大会の常連校となり、町内各小学校の児童は合唱力において高い評価を受けており、町内のイベントでその高い音楽性を披露しております。

本年も「音楽のまち やはば」のより一層の充実に向け、児童、生徒だけでなく一般の方々の発表の機会を増やしながら、音楽がより身近にある環境づくりを進めてまいります。

スポーツでも児童、生徒の皆さんは頑張っています。子どもたちの元気は町の活力につながりますので、さらに活気あるまちにするために町は4つの取り組みに力を入れてまいります。

一つ目は、より「安全・安心なま

ち」づくりです。「医療」や「福祉」、「健康」、そして「子育て」を一体的に考えての取り組みを進めます。1月に開所・開校となる県立療育センターと盛岡となん支援学校、平成31年9月に開院予定の岩手医科大学附属病院がその象徴となるでしょう。町民の皆さまの健康がまちづくりの基礎となりますので、安全・安心に生活できるまちを目指してまいります。

二つ目は、より「生活しやすいまち」づくりです。本年3月に開通となる矢巾スマートインターチェンジ、本格的にスタートした徳田橋の架け替え工事、岩手医科大学附属病院の移転とそれに係る周辺道路整備事業が進み、矢幅駅西地区に大型

ショッピングセンターの建設など、矢巾町は大きく変わっていきます。より活力のあるまちを目指して今後、盛岡西バイパスの南進を国や県に引き続き要望してまいります。

三つ目は、より「災害に強いまち」づくりです。その一例として、本年からスタートする防災ラジオがあります。自然災害や緊急事態の時、いち早く町民の皆さまに情報を伝達する手段として活用してまいります。また、日常的に行政情報の放送をいたします。町からのお知らせや学校・地域の情報など地域に根ざした情報を発信して、町民の皆さまと一緒に制作する放送を目指してまいります。

四つ目は、より「学習できるまち」



矢巾町議会議長
廣田 光男

開かれた議会を目指して

づくりです。子どもから高齢者までが豊かな人生を歩めるように生涯学習の強化を推進します。幼児教育・保育をさらに支援し、学校での教育をより充実させ、生涯学習を総合的に推進してまいります。

合計画基本計画の3年目となります。本年を改めて「矢巾町まちづくり改革元年」とし、国の掲げる「まち・ひと・しごと創生」と連携を図り、「共感と信頼」を大切に、「教育・情報発信」をキーワードとしたさまざまな施策を進めてまいります。

「住んでよかった」という町から、より魅力的な「住みたくなるまちやば」の実現に向けて、町民の皆さまと手を携えながら、職員一同決意も新たに力強く、着実に歩んでまいります。本年も町民の皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

す。そして、新年の戌年が町民の皆さまの描く「夢の実現」に向かうよいスタートの年になりますことを心からお祈り申し上げて、年頭のあいさつとさせていただきます。

町民の皆さま、謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆さまには希望に満ちた穏やかな新春をお迎えになりましたこと心よりお慶び申し上げます。日ごろから町政と町議会に對しまして、深いご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。平成30年の干支は「戌」であり、私は年男であります。戌年生まれの方は、愛情深くリーダー力に富むといわれております。反面頑固な面があるといわれておりますが、本年は干支にあやかたて愛情にあふれ気配りのある町議会を目指してまいります。

さて、昨年を振り返ってみますと時期尚早とみられていた安倍内閣が解散し、総選挙により新しい日本の国政の方向が決まりました。今後は対米国、中国、韓国および北朝鮮への外交政策と日本の安全保障政策や日本国憲法の改正論議の行方など厳しい政治状況へ向かってまいります。本町をみてみますと、基幹産業である農業を取り巻く環境は誠に厳しい状況にあります。コメの生産調整廃止や、農業構造改革に伴う新農業委員会制度移行などの影響で、新しい農業戦略が求められることとなります。基幹産業である「農業の再生なくして地方創生はあり得ない」と思うところであります。

こうした中、町では矢巾町第7次総合計画基本構想において、平成35年度の人口目標を3万人と定め、健康づくりの取り組み強化や医療福祉ネットワークの充実を図り、岩手医科大学附属病院の開院といった地域特有の資源を生かしながら、健康をキーワードに地域活性化を進める「ウェルネスタウン構想」を打ちだしていることから岩手医科大学を核とした新しい町づくりに取り組んでいるところであります。

また、本年3月に矢巾スマートインターチェンジが開通予定で、関連施設として道の駅構想や防災拠点施設の建設など周辺の整備をし、地域の活性化を進めようとしております。す。町議会としてもこれらを推進すべく、町と車の両輪として取り組んでまいります。

町議会は、昨年6月会議からタブレットを導入してペーパーレス化と議会活動の活性化が図られたところであります。

今後、町議会は開かれた議会を行う政とともに目指すため、より一層の情報公開を進めてまいります。

結びになりますが、町民の皆さまのご多幸とご健康をお祈り申し上げますとともに、本年も相変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。